記者発表資料

令和元年７月３１日
岩木川ダム統合管理事務所

少雨傾向の中でも津軽ダムにより利水必要量を補給中

津軽地方はこの夏、少雨傾向が続いています。現在、津軽ダムの流域内降水量は過去５ヶ年に比べて６割程度にとどまっています。こうした中、国土交通省岩木川ダム統合管理事務所が管理する津軽ダムでは、かんがい用水を始めとして弘前市上水道、河川の環境を良好な状態に保つための流量（正常流量）などを放流しています。

仮に津軽ダムが完成する前に存在していた目屋ダムから必要水量を補給していた場合には６月中旬で利水容量を使い果たしていたと見込まれます。津軽ダムの貯水量は７月３１日９時現在で約２５％となっており、今後の降水量の状況によってはさらに低下することも予想されています。

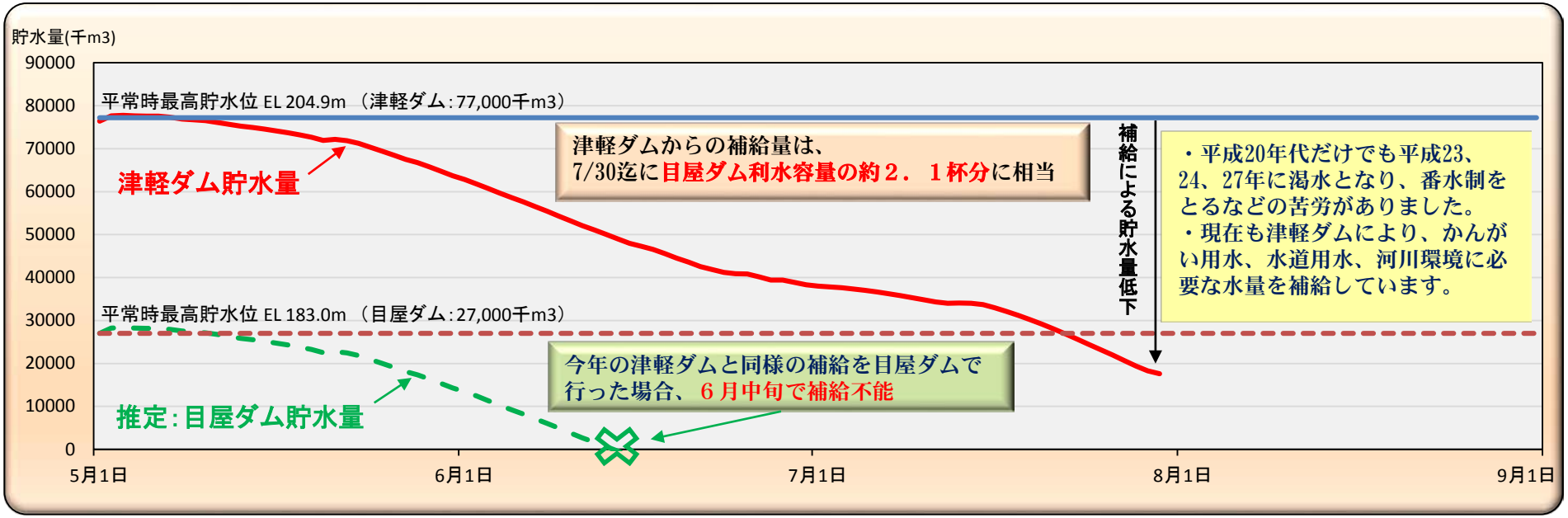
〈発表記者会：弘前記者会、黒石記者クラブ、専門紙各社〉

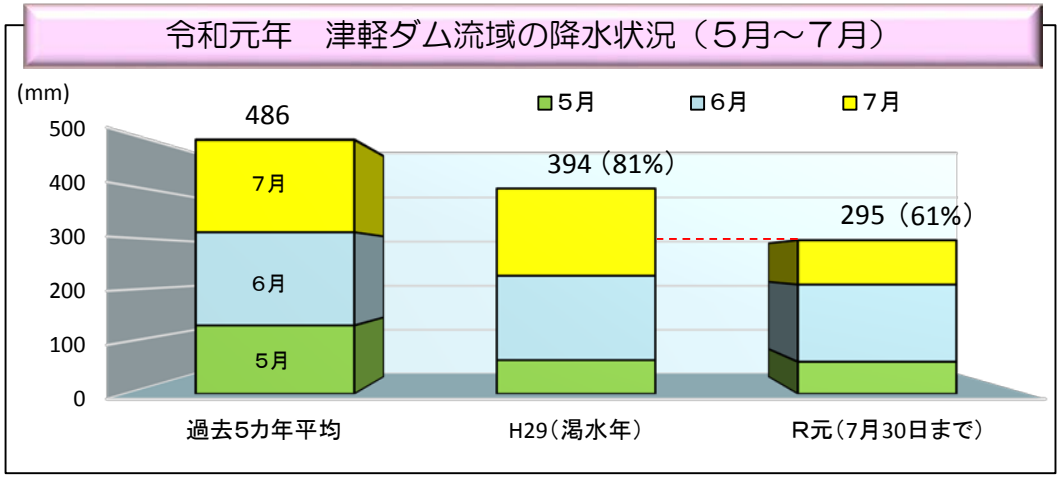
お問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　岩木川ダム統合管理事務所
（浅瀬石川ダム・津軽ダム）
中津軽郡西目屋村大字居森平字寒沢１３８－２
電話　０１７２－８５－３０３５
副所長（技術担当）　三浦（みうら）　義昭（よしあき）　（内線２０４）
管理課長　五十嵐（いがらし）　悟（さとる）　（内線３３１）

少雨傾向の中でも津軽ダムにより利水必要量を補給中

岩木川ダム統合管理事務所





令和元年5月から7月までの総降水量は平年を下回り、7月30日時点では渇水だった平成29年（394mm）をも下回る降水量（295mm）となっています。
※R元年は速報値



■水位低下により目屋ダム出現（R元．７．３１撮影）